種名	カ　シ　ラ　ダ　カ Emberiza rustica
分類	スズメ目ホオジロ科
特徴	大きな群れで冬を越す、冠羽を持ったホオジロ類。ユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖する。日本には冬鳥として渡来し、積雪の少ない地方で越冬する。
生活	日本に渡ってくる冬鳥の中では、ツグミとともにもっとも数の多い鳥である。10 数羽から数十羽、時には数百羽の群れで生活し、明るい林のへり、川原、農耕地などで見られる。常に姿が見られるのは丘陵地の谷戸田のように林と農耕地が接した所である。他のホオジロ類と同様に地上をはね歩いて移動しながら落ちている草の実を探す。繁殖期には針葉樹林帯に棲息し、林縁や水辺のやぶ陰の地上に営巣して卵を産む。
声	春期には「ピピチュルピピピィチュルチュルチクチクピィピィ」などと、ヒバリのさえずりを思わせる声でさえずる。木の枝先にとまったり、移動しながら鳴きかわすことが多い。地鳴きは「チッチッ」とホオジロより弱い声である。
見分け方	茶色い縦斑のある白い下面、赤茶色の腰、冠羽とその後ろの白斑などの特徴で他のホオジロ科から見分けられる。
時期	(月) 1 2 3 4 5 ― ― ― ― 10 11 12
その他	全長 (L) 15cm　翼開長 (W) 24cm

参考文献：山渓カラー名鑑　日本の野鳥